

ついに6月14日にフクロウのヒナが巣立ちました！

今年4月から博物館近くの森で、フクロウが子育てをはじめました。鳥の博物館では、フクロウの繁殖を調べるため、巣箱にカメラを付けて観察を続けてきました。ヒナは3羽生まれ、残念ながら1羽は巣立ち前に死んでしまいましたが、残りの2羽は元気に育ち、6月11日の夜に1羽目が巣立ち、6月14日の夕方に2羽目も無事巣立ちました！フクロウNEWSでは、フクロウの繁殖の記録をみなさんにご紹介します。



フクロウの繁殖記録

2006年10月	カメラ付き巣箱を設置
2007年10月	新しいカメラ付き巣箱を設置
2008年4月7日	フクロウが巣箱に長時間訪問する
2008年4月8日	フクロウの初卵が確認される
2008年4月28日	卵が3つ確認される
2008年5月10日	ヒナが1羽孵化する
2008年5月15日	ヒナが3羽とも孵化したのを確認
2008年5月25日	ヒナが1羽死亡する
2008年6月7日	ヒナが巣箱出入り口に止まり始める
2008年6月11日	1羽目が巣立つ
2008年6月14日	2羽目も巣立つ



●巣箱内の様子は、博物館のHPから見られます。OBISシステムによって、アーカイブされた映像がみられます。詳しくはこちらのHPをご覧ください。

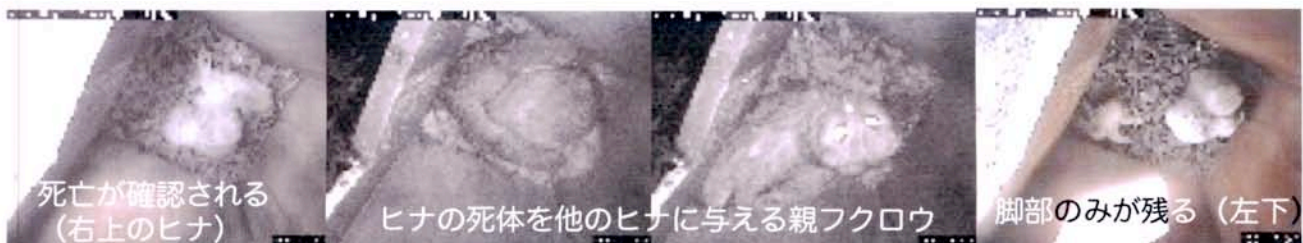
我孫子市鳥の博物館

<http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp/Strix/index.html>

OBISについて <http://obis.sc/>

ヒナの死、そして親フクロウは……

5月25日、日中に3羽のヒナのうち、1羽が死亡しました。原因は分かりませんが、鳥の子育てでヒナが死んでしまうことは決して珍しいことではありません。夜になり、親（おそらくメス）が戻ってくると、死んだヒナを他のヒナたちに、餌として与え始めました。その後、オスも巣箱に入り、2羽でヒナの死体をむしり始めました。翌日、ヒナの脚部分だけ残っているのが、確認できました。



死亡が確認される
(右上のヒナ)

ヒナの死体を他のヒナに与える親フクロウ

脚部のみが残る (左下)

我孫子のフクロウは小鳥がお好き？

フクロウは、主にネズミのような小動物を餌として捕まえると言われていました。しかし、今回観察していると、意外に小鳥を多く捕まえていることが分かりました。写真はヒナが小鳥を飲み込んでいる様子です。林内に下草が多く茂っているような場所では、ネズミのような地面を移動する餌は捕まえにくいいため、鳥や他の動物を捕まえることが多くなると言われています。

今後、どんな餌を食べていたのかを知るために、巣箱内に残った餌の残りや、周辺に落ちているペリット（フクロウが飲み込んで、消化できなかったものを吐き出したもの）を調べる予定です。



小鳥を飲み込むヒナ

巣立ち後のヒナ

フクロウのヒナは十分に飛べない状態で巣立ちます。巣立ち後、鋭い爪と嘴で木の幹をよじ登り、親に餌をもらいながら、成長します。

今回、巣立ち後に森の中で、フクロウのヒナが見つかり、山階鳥類研究所のスタッフの方の協力で、体重測定と標識の足輪を取り付けて、再び森に返しました。最初に巣立ったヒナの体重は490g、後に巣立ったヒナは465gでした。



最初に巣立ったヒナ

2番目に巣立ったヒナ
体重測定中

フクロウの生態

体長 約50～60cm、翼開長約100cm

分布 ユーラシア大陸の中、高緯度地方に分布
日本では北海道から九州に分布する留鳥

生息地 平地から山地の森林に生息

食べ物 ネズミや小型哺乳類、鳥類、カエル
ヘビ、昆虫など

行動 夜行性で、単独または番で行動する。日中は枝で休息し、夜になると、林縁や林内の少し開けた場所の木に止まり、餌を待ち伏せて捕まえる。

繁殖 一夫一妻で繁殖し、巣は樹洞やタカ類の古巣、巣箱などを利用する。繁殖期は本州では3～6月頃で、一つの巣に卵は2～4卵。卵は白色球形で、3～5日おきに産卵する。メスのみが抱卵し、ヒナは孵化後、約1か月で巣立つ



今回繁殖したフクロウ



2羽で仲よく

1～2月	3月	4月	5月	6月
求愛行動				
	産卵・抱卵 (約30日)			
		育雛 (約30日)		
			巣立ち後世話	